

工学が果たす多様な社会貢献

私たちが営む日々の暮らしの中で必需品となっている電気、製造、運輸、通信情報、インフラ、医療、介護、食品等の、製品や技術、システムのあらゆる分野において工学(Engineering)が果たす役割はあまりにも大きい。さらに、今後の超少子高齢化社会でSociety 5.0に対応した成長戦略上からも、工学の果たす貢献度はますます増大していくものと推測される。

(公社)日本工学アカデミー九州支部では、次代を担う優秀な若きエンジニアの育成を求めて、毎年、スーパーグローバルハイスクールに採択された九州沖縄地区の高校や高等専門学校の学生の皆さんを対象に出張講演会を実施している。昨年度の佐世保高専での情報技術に続き、今回は大分高専において「工学が果たす多様な社会貢献」をテーマに講演会を開催するものである。

2018年

11/28水

<時間> 13:00~14:40

<場所> 大分工業高等専門学校レクチャーホール

プログラム

◆13:00~13:10 開会挨拶

大分工業高等専門学校校長 日野 伸一

(日本工学アカデミー九州支部副支部長)



◆13:10~13:55 講演 I

「土地利用と行財政から見た災害対策」

九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター教授 塚原 健一氏

◆13:55~14:40 講演 II

「機械工学の枠を越えて~ネツヤ(熱工学研究者)が行う細胞凍結の研究~」

九州大学副学長・大学院工学研究院教授 高松 洋氏



◆14:40 閉会挨拶